

戦前における庶民の庭の植物利用

—東京都台東区谷中の事例—

高野 哲司

総合研究大学院大学 文化科学研究科 地域文化学専攻

- | | |
|---------------------|--------------------------------|
| 1. はじめに | 3.13 ヤマブキ |
| 2. Aの暮らし | 3.14 トマト |
| 2.1 Aとその家族の紹介 | 3.15 ナンテン |
| 2.2 A宅の庭の概観 | 3.16 ナガバジャノヒゲ |
| 3. 庭の植物にまつわる家族との思い出 | 3.17 アサガオ |
| 3.1 ハラン | 3.18 ザクロ |
| 3.2 アオキ（園芸品種） | 3.19 シュロ |
| 3.3 アオキ | 3.20 カラスウリ |
| 3.4 シイ属の一種 | 3.21 フジ |
| 3.5 カリン | 4. A宅における庭の植物管理 |
| 3.6 キュウリ | 5. 考察 |
| 3.7 カキノキ | 5.1 A宅の庭の植物の特徴 |
| 3.8 ミツマタ | 5.2 自宅の庭で食用になる植物を栽培する
ことの意味 |
| 3.9 ダイオウグミ | 5.3 儀礼としての植物利用 |
| 3.10 ビワ | 6. おわりに |
| 3.11 ヤツデ | |
| 3.12 サツマイモ | |

1. はじめに

日本における都市住民と植物との関わりに関する研究には、岡山県における都市住民の園芸植物の好みとその地域性について論じた報告（小松ほか 2003）、屋敷林における植物の種類および屋敷林の植物利用について木本植物を中心に民俗学的に論じた報告（野本 2006）、花見と桜について歴史学の視点から論じた報告（白幡

2000）、大阪府における公園管理と花見について論じた報告（増野 2013）などがある。

都市に生活する多くの人びとは自宅に、庭をつくって植物を植えている（橘 2013）。庭には、家屋と関連した特定の空間を表す意味と、そこで何かの行動が行われる空間としての意味、家族が生活する場所としての「家庭」の3つの意味がある（水島 2009）。

多くの人にとって、庭は個人の表現であり、庭をつくることで、価値観や内なる感情を表現することができるということが明らかにされている(フランス 1996)。さらに、庭の植物は、人間の生活に取り込まれており、庭木がその代表である(進士 2002)。庭に植栽される植物は、食用などといった実用の面からも現在社会の中で重要性が増している(池谷 2013)。例えば、インドネシア、スマトラの都市の庭には果樹や薬草が多く植栽されている(柴田 1996)。韓国の都市の庭には、カキノキなどの果樹やマツなどの常緑樹がみられる(姜ほか 1992)。アンデスでは、庶民の庭に薬用植物が多く植栽されていることが報告されている(Finerman and Sackett 2003)。

都市域での住宅の庭は、その居住者に恩恵を与えるだけでなく、まちなみの景観や住宅地の環境形成に果たす役割も少なくない(川根ほか 2000)。

これまで日本の大都市の庭における植物利用に関する研究は、邸宅の庭園を中心に庭園の利用、居住者の生活のなかにみえる庭園観といった造園生活史の観点から行われてきた(鹿野ほか 1998; 古山ほか 2005)。例えば、俳人正岡子規の庭園における植物利用について歴史資料をもとに分析した報告(古山ほか 2005)がある。また、日本庭園における植栽の変遷について、各時代の庭園に植栽されていた植物の種類、その管理技術について論じた通史(飛田 2002)がある。

庶民の庭における個々の植物ごとの利用方法に関する研究には、農村の農家の庭園趣味に関する報告(伊藤 1993)、紀伊半島の民家庭園を構成する植物について種ごとの利用方法を論じた報告(道下ほか 2007)などがある。

一方、庶民の庭は個人のテリトリー(中尾 1986)であるため、植物利用の実態を把握することは難しく、研究事例が農家の庭に比べて著しく少ないことが現状である。多くの庭園にお

いて植栽は重要な役割を担っている。庭園の植栽を明らかにすること、すなわち庭園にどのような植物が植えられていたか、植栽された理由について検討することは、日本庭園史上においても不可欠である(飛田 2002)。庶民が庭に植物を植えることは、その植物に対する観念がなければなされない。しかし、大都市の庶民の庭における植物利用の実態について論じた報告はわずかであり、これまでの報告では、東京都における下町の緑の実態と効用に関する報告(真鍋 1998)、都市住宅の庭の植栽から生まれるコミュニケーションに関する報告(木原 1999)、アンケート調査を主軸として庭における食べられる植物の利用について論じた報告(木下 2000)、が見られる程度である。庶民の庭を構成する植物の種類に関する情報は断片的である。

筆者は、庶民が居住する敷地内の庭における戦前の植物利用について記述することは、その家のライフヒストリーと関係が深いと考えている。

本研究の目的は、東京都台東区谷中における第二次世界大戦前の庶民の庭における植物利用について明らかにすることである。今回調査地として選定した谷中地域は関東大震災や第二次大戦での空襲とともに広範囲の焼失を免れており、昔ながらの街並み、長屋等が比較的残されている(高野 2019)。

筆者は、2018年12月、2019年3月、5月に東京都台東区谷中において、第二次世界大戦前に住宅の庭で撮影された写真の閲覧が可能であり、かつ当時の庭における植物利用について聞き取りが可能な住宅A宅を訪問した。本稿では、世帯主Aの庭付き住宅をA宅と呼ぶ。具体的には、A宅において写真による庭の風景の記録を行うとともに、A宅に住む夫(80代)と妻(70代)に庭の植物利用や植物管理に関するインタビューを行った。A夫妻にインタビューを行ったのは、現在の谷中の庶民の庭における植物利用について分析するためには、戦前の庭における植物利

用に関する情報が不可欠だからである。

インタビューは1回の訪問につき、A宅において3時間程度行われた。また、インタビューの際には、A夫妻から戦前に自宅の庭で撮影された写真¹⁾を提供いただき、居住者の方々と一緒に過去の庭の写真を確認しながら個々の植物の利用について聞き取りを行った。なお、A宅におけるインタビューについては、録音は行っておらず、ノートの記述をもとに文章化した。過去の写真には日々の暮らしの中に埋もれ、忘れられてゆく時代の移り変わりが正確に記録されている(白幡 2004)。筆者は、本研究において個人のスナップ写真の分析することは、ライフヒストリーのみならず周囲の自然環境や社会環境を知るための重要な手がかりになると考えている。戦前にA宅の庭で撮影された写真には、庭の構成要素として手水鉢や木戸なども写されており、庭を中心とした庶民の暮らしの様子もごく一部であるが、垣間見ることができる。

本稿の目的は、A宅における戦前の庭の植物利用について聞き取り調査により復元したものを資料として紹介することである。

本稿は、あくまでも1つの事例にすぎないが、戦前における庶民の庭の植物利用に関する稀少な資料として呈示する。

2. Aの暮らし

2.1 Aとその家族の紹介

Aは、1935年に東京都台東区谷中の一戸建ての平屋で生まれた。Aは両親、兄、姉の5人で暮らしていた。Aは小学1年生から4年生まで忍ヶ丘小学校に通っていたが、1944年から1945年8月に終戦を迎えるまでの期間、母親と姉と一緒に富山県に疎開した。その後、富山県から東京都台東区谷中に戻ったが、自宅を貸家として父親の知人に貸していたため、両親と3人で自宅付近のアパートで生活していた。その後、1947年からは自宅で暮らすようになった。Aは義務教育を終えた後、会社員となった。Aは出張が多かっ

たため、在職中は庭の管理に携わることができず、庭は母親と姉が管理していた。Aは1962年に茨城県の農家出身の妻と結婚した。妻がシソやサンショウをA宅に茨城県の実家から運び、庭に植えたことがきっかけとなり、庭の植物管理に積極的に携わるようになった。現在もダイオウグミをはじめとする樹木の枝の剪定などに携わっている。

以下にAの家族を父親から順番に紹介してゆく。

Aの父親は1894年生まれで、富山県の出身であった。1914年に東京美術学校²⁾に入学して、デザインを専攻した。大学進学に伴い出身地である富山県から上京後は、東京都内のアパートに住んでいた。1923年に庭付きの家(現在のA宅)を購入して住むようになった。その後、結婚して、1925年に長男(Aの兄)が生まれ、1928年に長女(Aの姉)が誕生した。しかし、その後しばらくして妻が急に病気で亡くなったので、1932年に再婚した。1933年に再婚した妻との間にAが誕生した。Aの父親の職業についてみてゆく。東京美術学校を卒業後は松坂屋³⁾に就職し、美術部に配属された。勤務先の松坂屋では、歌舞伎座の緞帳や石鹸の包装紙をデザインする仕事など図案に関する業務を担っていた。勤務先の定休日は、毎週月曜日であった。55歳で定年を迎え、松坂屋を退職した後は、60歳まで個人で画商の仕事をしていた。父親は仕事が多忙であったため、家にいる時間が少なく、Aと話をする機会はほとんどなかったという。

Aの母親は1905年生まれで富山県の出身であった。1914年に上京した後、1932年に結婚した。家ではミシンを用いて、裁縫に励んでいた。Aの妻は「主人の母は綺麗好きであり、生け花を趣味としてたしなんでいた」と語る。

Aの兄は1925年生まれである。中学生のころに、カメラに関心をもち、家の庭で家族の写真を撮影していた。その後、東京薬学専門学校⁴⁾に入学し、薬学を専攻していた。

Aの姉は1928年生まれである。自然や植物に関心が深く、女学校で植物の栽培を学んだ。A宅では、トマトの栽培などに携わっていた。

2.2 A宅の庭の概観

A宅の庭の外観を以下に紹介する。A宅には様々な植物が見られる。写真1は、A宅の北面であり、バラ（園芸品種）、ミカン、フキが生育している。

A宅の庭には現在でも戦前からの手水鉢が残されている。写真2は、手水鉢の周囲に生育する植物を写したものである。手水鉢の周囲には戦前からのハランとナガバジャノヒゲが残存する。2009年頃から妻（70代）によると帰化植物のシンテッポウユリも生育が確認されている。

3. 庭の植物にまつわる家族との思い出

A夫妻の語りを聴くと必ず出てくるのが、植物にまつわる家族との思い出である。Aの父は、カキノキ（甘柿）やダイオウグミをはじめとする果樹を好んだ。Aの母は、庭の花を生けることはあったが、植物の栽培には、あまり関心がなかった。Aの家族の中で最も植物に興味を示していたのは、Aの姉である。Aの姉は植物の栽培について非常に興味を示し、庭で野菜を栽培していた。

表1にA宅の庭の植物利用についてまとめた。表1における植物の記載順は、学名のアルファベット順に基づいている。表1より、Aが誕生した1935年から2019年に至るまでに、A氏宅で利用されてきた植物は、合計110種類である。植物の存在期間を（1）Aの誕生から第二次世界大戦前までの時期（1935年から1945年）、（2）第二次世界大戦後からAが結婚する前までの時期（1945年から1962年）、（3）Aの結婚後から自宅の改築までの時期（1962年から1976年）、（4）自宅の改築から2019年現在までの時期（1976年から2019年）の4つの時期に区分した。以下に表1から読み取れることを記述する。

（1）Aの誕生から第二次世界大戦前までの時期（1935年から1945年）では合計27種類の植物の生育が確認され、このうち19種類の植物が利用されていた。具体的には、鑑賞が10種類、食用が7種類、縁起物が1種類、薬用が1種類であった。

（2）第二次世界大戦後からAが結婚する前までの時期（1945年から1962年）では、合計23種類の植物の生育が確認され、このうち18種類の植物が利用されていた。具体的には、鑑賞が11種類、食用が5種類、縁起物が1種類、薬用が1種類であった。

（3）Aの結婚後から自宅の改築までの時期（1962年から1976年）では、合計33種類の植物の生育が確認され、このうち18種類の植物が利用されていた。その利用方法は、鑑賞が13種類、食用が4種類、縁起物が1種類、行事が1種類であった。

（4）自宅の改築から2019年現在までの時期（1976年から2019年）では、合計107種類の生育が確認され、このうち52種類が利用されていた。その利用方法は、鑑賞が38種類、食用が10種類、縁起物が1種類、行事が1種類、仏花が1種類であった。表1より、A宅では自宅の庭の植物は主として、食用や鑑賞に用いていたことが読み取れる。表1より、A宅の庭で戦前に見られた植物の花色と果実の色についてみると、花色は白色や黄色が多い傾向があること、果実は赤色を呈する種類が多いことが傾向として読み取れる。

以下に植物にまつわるA宅における家族の思い出を21種類の植物を通して紹介する。植物の記載順は学名のアルファベット順に基づいている。

3.1 ハラン

Aの母は、庭に生えているハランの葉を切り取り、2つの用途に用いていた。1つめの用途は、ハランの葉を皿の上に敷きつめて、その上に菓

子を載せていたことである。2つの用途は、玄関に花を飾るときにハランの葉を添えていたことである。このハランは、現在も庭に配置された手水鉢付近に生育している。写真3は、ハランが生育する手水鉢付近で1936年から1937年までの間にAの知人によって撮影された写真である。当時、Aの母親が赤ん坊であったAを抱いている様子が写されている。手水鉢の付近にはハランが写っている。

3.2 アオキ（園芸品種）

Aの妻は、アオキ（園芸品種）について次のように話す。

「葉に黄色の点の模様が付いたアオキがありました。台所には障子があり、障子を開けるとアオキの葉が見えました。この家は1976年に改築する前は、台所から庭を眺めることができるようになっていました。アオキが生えていたところは、日当たりが良い場所とは言えず、1年を通して湿り気が多い場所でした。台所には障子があり、その障子の外には雨戸が付いていました。」

3.3 アオキ

アオキについては、A宅に伝わるエピソードが残されている。かつて、Aの父親が40歳ぐらいの時に、A宅に数名の画家が集まることがあった。その際に画家らがA宅の座敷から見える庭のアオキをみて、「Aさんのところは、緑の雨がふるようだ。」とコメントしたという。なお、この話は、かつてAの妻がAの母親から聞いた話である。

3.4 シイ属の一種

シイ属の一種⁵⁾はAが生まれたときから既にA宅の庭に生育していた（写真4）。写真4には、Aの母親が籐椅子に座り、赤ん坊のAを抱く様子が記録されている。写真には「三十二歳」と母親の年齢⁶⁾が記されている。Aにとって本種は、子どものころから庭に生えていたので身近な植

物であった。本種は結実したことはないという。現在は、樹が枯れたため伐採され、切株のみが残されている。

3.5 カリン

Aの妻は、A宅に嫁いだ時、既にカリンが庭に植栽されていたことを記憶している。1976年に家を改築した際に伐採されたため、現存しない。

3.6 キュウリ

キュウリは、戦前、庭の隅につくられた畑で栽培されていた。Aは庭で収穫したキュウリを食べたことを記憶している。キュウリの支柱には、竹が活用されていた（写真5）。写真5は1942年頃に撮影されたもので、Aの兄、母親、姉、Aが写っている。Aは、団扇を持っている。当時、庭にはヤブ蚊が多く、団扇は、ヤブ蚊を追い払うことに用いられていた。

3.7 カキノキ

カキノキには甘柿と渋柿があることが知られているが（湯浅 2017）、A宅の庭でみられたものは、甘柿であり、樹高は3m程度であった。Aは、本種の果実が枝に実っているのを見つけて、採集し、皮をむき生食したことを記憶している。Aの父や兄も本種の果実を生食していた。Aによると、肥料をカキノキに与えることはなかった。カキノキは、日陰で湿り気が多い土壤に生えていた。

3.8 ミツマタ

戦前、A宅には玄関先に植栽されていた。Aの妻は、1962年にこの家に嫁いだ時、ミツマタの花が咲いていたことを記憶している。Aの妻によると本種は紙の原料になるという⁷⁾。

3.9 ダイオウグミ

Aは本種の果実を生食したことを記憶している。果実を食すると渋みがあったという。A宅

には近所の子どもたちもダイオウグミの果実を採集するために訪れていた。本種の特徴は2つある。1つめの特徴は果実がナワシログミよりも大きいことである⁸⁾。2つめの特徴は、枝に棘が出ることである。幹が2つに分岐していることも特徴である。A宅には、本種は現在も生育しているが、枝が強く剪定されているために開花には至っていない状況である。

3.10 ビワ

戦前、Aは庭のビワの果実を採集して食していた。当時は、菓子が不足していたので、甘味を補うために頻繁に採集して食していた。Aの父、姉、兄もビワの果実を採集して、頻繁に食べていた。Aは、本種の果実は小さく、樹高は平屋の屋根よりも高かったと記憶している。

3.11 ヤツデ

Aの妻は、ヤツデについて次のように話す。

「1962年、私がこの家に嫁いだ時、庭にはヤツデが沢山生えていました。私の出身地は茨城県ですが、そこでは葉の先が八つに分かれたヤツデの葉を神棚に備えていました。ヤツデの葉は、葉の先が七つや九つに分かれたものが多く、葉の先が八つに分かれた葉は少ないです。それゆえ、出身地ではヤツデの八つに分かれた葉を神棚に供え、戦争に行った人が戻って来ると言われていました。私にとってヤツデは戦争を思い出す植物です。」

かつて、A宅の玄関先には、ヤツデが見られた(写真7)。写真7は、1935年にA氏の知人によって、A宅の玄関先で撮影されたものであり、ヤツデが写されている。写真7の下部には、撮影年月日が「1935.8.24」と明記されている。玄関先には、当時赤ん坊であったAを抱くAの母親、Aの兄、Aの姉、Aの姉の友人、Aのいとこが写っている。

3.12 サツマイモ

戦前、庭の隅につくられた畑でサツマイモを栽培していた(写真6)。写真7は、1942年頃にAの兄によって撮影されたものである。写真6には、Aの母親が写っている。Aは、庭で収穫したサツマイモを食べたことを記憶している。収穫したサツマイモは蒸して食べた。

3.13 ヤマブキ

Aは、戦前に庭にヤマブキが生育していたことを記憶している。現在もA宅にヤマブキは現存している。花色は黄色である。

3.14 トマト

A宅には、Aの母親が庭で栽培したトマトの果実を収穫する様子を写した写真が残されている(写真8)。写真8は、1941年から1942年までの間にAの兄によって撮影されたものである。写真8には、母親がトマトの果実を収穫する様子をAの姉とAがみている様子が記録されている。現在、この場所は隣家が建設されたために、確認することはできない。Aはトマトについて次のように話す。

「戦前、姉が庭の隅の畑でトマトを育てていました。トマトが栽培されていた場所の日当りは良好でした。姉は、トマトの栽培に興味を持っていました。姉はトマトを収穫する際、非常に喜んでいました。」

3.15 ナンテン

戦前、手水鉢に近くにナンテンが生育していた。Aの母は赤飯を炊いたときに、ナンテンの葉を載せていた。母親が赤飯の上にナンテンの葉を載せたのは、ナンテンには難を転ずる、縁起物としての意味が込められているからだという。Aは、便所の近くにナンテンがあったことを記憶している。

3.16 ナガバジャノヒゲ

戦前からA宅に生育している。Aの妻は、本種をリュウノヒゲと呼び、白色の花が咲き、青紫色の実ができることを確認している。

3.17 アサガオ

Aは、1942年頃、自宅の庭で一重のアサガオが栽培されていたことを記憶している（写真9）。Aによると、この写真のアサガオはAの母親あるいはAの父親が種子を入手して、直接地面に播種したものに由来するという。アサガオの花色は不明であるが、写真9より、アサガオの花は小輪のタイプであることが推測される。写真が撮影された場所は、日陰で湿り気が多い場所であった。写真9の撮影者はAの兄である。

3.18 ザクロ

A宅にはザクロが戦前から生育している。Aは庭にザクロの樹が生えていたことを鮮明に記憶している。Aによると、ザクロの樹に果実は実っていたが、Aの家族は、本種の果実が酸っぱいことを知識として持っていたので、ほとんど食べなかったという。Aによると、1964年の時点では樹勢が弱り、樹が枯れ始めていた。A宅にザクロの樹は現存しない。

3.19 シュロ

A宅にはシュロが戦前から自生している。Aによると、シュロは子どものころから庭に生えていたので身近な植物であった。Aの母親は、シュロの葉先を丸く刈り込んでいた⁹⁾。

3.20 カラスウリ

A宅にはカラスウリが戦前から自生している。A氏の母は、カラスウリは化粧品になると話していた。A宅の庭では、現在もカラスウリは開花しており、赤い果実が確認されている。

3.21 フジ

A宅には、1945年に撮影されたフジの写真が残されている（写真10）。写真10は、雪の日に撮影されたものであり、フジの蔓、フジ棚以外に雪を被ったハランやシュロも写っている。Aにとって、庭のフジは身近な植物であった。花色は、紫色を呈していた。現在は、生育を確認することができない。

4. A宅における庭の植物管理

ここでは、A宅の庭において、どのような植物管理が行われていたかについて紹介する。戦前、A宅の庭では、庭の片隅にトマトなどの野菜を栽培する畑がつくられていた。畑の畝づくりや水やりは当時、女学校に通っていた姉が担っていた。Aの姉が出かけている時は、水やりは母親が行っていた。当時、糞尿の回収にお穢屋¹⁰⁾が訪問することがあった。姉は便所から糞尿をくみ取り、お穢屋に渡していた。当時は、現在のように化学肥料がなかったので、糞尿を肥料として用いていた。姉は便所から糞尿をくみ取り、その糞尿を野菜の下肥として利用していた。

5. 考察

5.1 A宅の庭の植物の特徴

本研究の目的は、東京都台東区谷中における戦前の庶民の庭における植物利用について明らかにすることであった。A宅で戦前に利用されていた19種類の植物のうち、現存する植物は4種類であり、現存しない種類は15種類であった。

ここでは、A宅において戦前に見られた植物について、その特徴を紹介する。

戦前に見られた植物の特徴としては、常緑で耐陰性があり、赤色の果実をつけることがあげられる。ナンテン、アオキはこれらの特徴を有している。一方、戦後に見られた植物の特徴としては、明治以降に渡来した種類が多く、在来植物には見られない花色や特有の形態をもつ花

をつけることがあげられる。アルストロメリアやウキツリボクはこれらの特徴を有している。

5.2 自宅の庭で食用になる植物を栽培することの意味

戦前、A宅の庭において利用されてきた植物には、サツマイモやトマト、キュウリなどがあげられる。Aは「戦前は食べるものが少なかったので、サツマイモなど食生活につながるものを植えていた。」と話した。A宅では、戦前の庶民の庭では、長屋のように木箱の中でアオジソなど野菜を木箱で栽培すること（高野 2019）はなかったものの食生活につながる種類を栽培し、利用されていたことが示唆される。

A夫妻によると、Aの父は庭に見られた植物の中でもとりわけビワなどの果樹を好んだという。表1よりA宅の庭で見られた植物の中から果樹を列挙するとカリン、カキノキ、ダイオウグミ、ビワ、ザクロの5種類があげられる。庭付きの家に暮らす人々にとっての庭の植物は、観賞用であると同時に食用にできるか否かで選ばれることが多い（池谷 2013）。A宅の庭で見られたこれらの植物は花や実を楽しむことができる特徴を有していると考えられる。ザクロについては、A宅では食用にされたことはなかった。このことからザクロは果樹でありながらも、A宅では果実の形状や色合いが重視されていたことが示唆された。

5.3 儀礼としての植物利用

儀礼としての植物利用については、ヤツデの事例がみられた。ここでは、A宅の庭でみられたヤツデの事例について考察を行う。A宅では戦前からヤツデが多く生育していた。3.8で先述したようにAの妻の出身地では、ヤツデは戦争との関係がある植物であった。本種は、民間では魔よけや厄よけになるとして門前に植えられた（湯浅 2017）。また、本種は常緑性で耐陰性があり、施肥の手間がかからないため、第二次

世界大戦前より谷中地域の長屋では良く見られた（高野 2019）。このようなことを踏まえると、戦前、A宅の庭においてヤツデが多く確認されたのは、常緑樹で栽培管理が容易であり、葉を魔よけや厄よけとして活用することができるためであると考えられる。

6. おわりに

以上、東京都台東区谷中におけるA宅の庭における植物利用の事例を資料として紹介した。

本研究では、戦前の庶民の庭の植物利用について過去の庭の写真が残されているA宅を訪問し、聞き取り調査を行った。その結果、戦前の谷中地域の庶民の庭における植物利用の一端が明らかになった。

現在では、第二次大戦前の生活環境を知る方々は高齢になり、植物利用に関する聞き取り調査や過去の写真の閲覧は困難であるように思われる。

庶民の庭における植物の種類や利用方法については、第二次世界大戦前と第二次世界大戦後では変化があるように思われる。具体的には、A宅にはナガバジャノヒゲやハランのように戦前からの植物も一部は現存しているが、フジなど現在では生育が確認できない種類もある。聞き取り調査を続けながら第二次世界大戦前および1970年代の高度成長期における日本人の暮らしや社会情勢について捉えてゆくことが研究課題である。

本稿は、A夫妻にインタビューを行った結果の一部を短文にまとめたものにすぎないが、戦後74年が経過した現在では第二次大戦前の植物利用に関する知見や庭で撮影された写真は大変貴重な資料であると筆者は考えている。

謝辞

本稿は2019年6月に開催された第16回生き物文化誌学会東京大会における口頭発表の原稿に加筆したものである。本稿を執筆するにあたり、

東京都台東区谷中における現地調査は2019年度生き物文化誌学会さくら基金の助成を受けました。また、A夫妻には、聞き取り調査にご協力いただくとともに戦前に撮影された庭の写真資料を多数ご提供いただきました。池谷和信先生には東京都台東区谷中におけるフィールドワークを支援していただくとともに本稿に関する貴重なご助言をいただきました。

記して感謝いたします。

注

- 1) A宅には、第二次世界大戦前に庭で撮影された家族の写真がアルバムの中に多数保管されている。写真の撮影者はAの兄またはAの知人である。
- 2) 東京都内に位置するデパート。
- 3) 現在の東京藝術大学を示す。
- 4) 現在の東京薬科大学を示す。
- 5) Aは、本種をシイの樹と表現している。シイと名の付く植物には、ツブラジイとスタジイ以外にマテバシイがあるが(湯浅 2004)、葉の形状から本稿で紹介したシイの樹は、マテバシイではなく、ツブラジイまたはスタジイのどちらかであると同定した。ただし、果実を確認することができないため、本稿ではツブラジイとスタジイの区別はせず、シイ属の一種とした。
- 6) Aによると、母親の年齢は数え年で記載されている可能性が高いという。
- 7) ミツマタは和紙の原料の1つである。江戸時代までコウゾ、ガンピと並び、和紙には欠かせない存在であった(湯浅 2017)。
- 8) ナワシログミの果実は長さが約15mmであるが、ダイオウグミは、前者よりも果実が大きく長さ17~20mmになる(北村・村田 1971)。
- 9) シュロの葉は成長するに伴い、葉の先が折れ曲がる性質がある。
- 10) 糞尿を回収する業者のこと。

参考文献

日本語文献

- 池谷和信
2013 「生き物文化の地理学の誕生 生き物資源利用と管理の思想」池谷和信編『ネイチャー・アンド・ソサエティ研究 第2巻 生き物文化の地理学』349-367、海青社。

- 磯野直秀
2007 「明治前園芸植物渡来年表」『慶応義塾大学日吉紀要 自然科学』42: 27-58。
- 伊藤清悟
1993 「山村の農家庭に関する研究II—長谷村非持地区を事例とする農家敷地の庭園趣味—」『信州大学農学部紀要』30(2): 65-87。
- 川根あづさ・愛甲哲也・浅川昭一郎
2000 「北海道恵庭市恵み野を事例とした住民の庭づくりに対する意識と取り組みについて」『ランドスケープ研究』63(5): 695-700。
- 姜榮祚・藤井英二郎
1992 「韓国釜山市の土地区画整理地区における住宅の庭の構成と植栽について」『造園雑誌』55(5): 313-318。
- 北村四郎・村田 源
1971 『原色日本植物図鑑・木本編 (I)』保育社。
- 木下 勇
2000 「エディブルランドスケープの形成への住民の意識に関するケーススタディ」『ランドスケープ研究』63: 687-690。
- 木原朝子
1999 「都市住宅の植栽から生まれるコミュニケーションに関する研究—世田谷区代田・梅丘を対象として—」『日本庭園学会誌』8: 1-12。
- 小松 冨・守田益宗
2003 「岡山県における都市住民の園芸植物の好みとその地域性」『岡山理科大学自然植物園研究報告』8: 23-29。
- 鹿野陽子・服部 勉・楊舒淇・仲田茂司・進士五十八
1998 「東京都目黒区旧西郷従道邸庭園に関する造園生活史的研究」『ランドスケープ研究』61: 389-394。
- 柴田 祐・田原直樹・薄井謙一・福田忠昭
1996 「インドネシア、スマトラの都市における住宅の庭に関する一考察」『ランドスケープ研究』59(5): 233-236。
- 白幡洋三郎
2000 『花見と桜—「日本的なるもの」再考』PHP研究所。
- 白幡洋三郎
2004 『幕末・維新・彩色の京都』京都新聞出版センター。

進士五十八

2002 「人間・植物関係学の原点」『人間・植物関係学会誌』1(2): 2-4。

高野哲司

2019 「戦前における人生の記憶と植物利用—東京都台東区谷中の事例—」『総研大文化科学研究』15: 137-150。

橋 セツ

2013 「都市の観賞植物と庭園の変容—近代英国における園芸とモラルの実践」池谷和信編『ネイチャー・アンド・ソサエティ研究 第2巻. 生き物文化の地理学』301-323、海青社。

寺崎留吉・奥山春季

1977 『寺崎日本植物図譜』平凡社。

中尾佐助

1986 『花と木の文化史』岩波新書。

仁田坂英二

2009 「古典園芸植物のドメスティケーション」山本紀夫編『ドメスティケーション—その民族生物学的研究』国立民族学博物館調査報告84: 409-443。

野本寛一

2006 「屋敷林の民俗—宮城県のイグネを緒として」『民俗文化』18: 11-75。

飛田範夫

2002 『日本庭園の植栽史』京都大学学術出版会。

フランシス・マーク

1996 「日常性と個人性:六つの庭の物語」M.フランシス・R.T.ヘスター Jr. (共編) 佐々木葉二・吉田鐵也 (共訳) 『庭の意味論』217-225、鹿島出版会。

古山道太・服部勉・進士五十八

2005 「正岡子規の庭園観・植物観と子規庵庭

園(1894~1902)の図上復原」『ランドスケープ研究』68(5): 377-380。

増野高司

2013 「日本の花見に集まる人々—大阪府における公園の空間利用の事例」池谷和信編『ネイチャー・アンド・ソサエティ研究 第2巻. 生き物文化の地理学』325-348、海青社。

真鍋千恵子

1998 「下町の緑の実態と効用—事例報告7:下町の緑—下町の緑の実態と効用—街と人とを緑がつなぐ」『ランドスケープ研究』62(1): 42-44。

水島かな江

2009 「明治期の家政書からみた庭と家族に関する研究」『生活学叢論』15: 17-29。

道下雄大・梅本信也・山口裕文

2007 「紀伊半島南部における民家庭園のフロラ的多様性」『エコソフィア』19: 73-85。

湯浅浩史

2004 『植物ごよみ』朝日新聞社。

湯浅浩史

2017 『日本人なら知っておきたい四季の植物』ちくま新書。

英語文献

Finerman, Ruthbeth and Ross Sackett

2003 “Home Gardens to Decipher Health and Healing in the Andes.” *Medical Anthropology Quarterly, New Series*, 17(4): 459-482.

2019年9月30日 受付

2019年12月10日 採択決定



写真1 A宅の庭の概観

特記：赤字は植物名を示す。

出所：2019年5月東京都台東区谷中にて筆者撮影。



写真2 A宅の庭の手水鉢

特記：赤字は植物名を示す。

出所：2019年3月東京都台東区谷中にて筆者撮影。



写真3 ハランが生育する手水鉢付近で撮影された写真。
 特記1：1936年から1937年までの間にAの知人により撮影されている。
 特記2：赤字は、植物名を示す。
 出所：A夫妻提供による。



写真4 背景にシイ属の一種が写る写真。
 特記1：1936年から1937年までの間にAの知人により撮影されている。
 特記2：赤字は、植物名を示す。
 出所：A夫妻提供による。



写真5 庭でキュウリが栽培されている様子
 特記1：1942年頃にAの兄により撮影されている。
 アサガオも写っている。
 Aによるとカメラのセルフタイマー機能を用いて撮影されたという。
 特記2：赤字は、植物名を示す。
 出所：A夫妻提供による。



写真6 A宅の庭でサツマイモが栽培されている様子
 特記1：1942年頃にAの兄により撮影されている。
 トマト、キュウリも写っている。
 特記2：赤字は、植物名を示す。
 出所：A夫妻提供による。



写真7 A宅の玄関先におけるヤツデの写真
 特記1：1935年8月24日にAの知人により撮影されている。
 特記2：赤字は、植物名を示す。
 出所：A夫妻提供による。



写真8 Aの母親がトマトの果実を収穫する様子
 特記1：1942年頃Aの兄により撮影されている。
 サツマイモも写る。
 特記2：赤字は、植物名を示す。
 出所：A夫妻提供による。



写真9 庭でアサガオが栽培されている様子。
 特記1：1942年頃Aの兄により撮影されている。
 カキノキ（甘柿）、トマトも写る。
 特記2：赤字は、植物名を示す。
 出所：A夫妻提供による。



写真10 A宅の庭のフジの写真
 特記1：1945年に撮影された。撮影者は不明である。
 特記2：赤字は植物名を示す。
 出所：A夫妻提供による。

表1 A 宅の庭における植物利用

標準和名	学名	大分類 ¹⁾	科	植物の存在期間と植物利用 ²⁾				野生植物 ³⁾		栽培植物		花色 ⁶⁾	果実 ⁷⁾	備考
				1935年-1945年	1945年-1962年	1962年-1976年	1976年-2019年	在来種	外来種	明治以前 ⁴⁾	明治以降 ⁵⁾			
ウキツリボク	<i>Abutilon megapotamicum</i>	木本	アオイ				鑑賞				○	黄色	不明	
カエデ属の一種	<i>Acer</i> sp.	木本	カエデ				鑑賞			○		不明	不明	
セイヨウキクラクソウ	<i>Ajuga reptans</i>	草本双子葉	シソ				鑑賞				○	紫色	不明	
ノビル	<i>Allium grayi</i>	草本単子葉	ユリ				鑑賞		○			不明	不明	
アロエ属の一種	<i>Aloe</i> sp.	草本単子葉	ユリ				鑑賞			○		橙色	不明	
アルストロメリア	<i>Alstroemeria</i> cv.	草本単子葉	ユリ				鑑賞				○	桃色	不明	
アマリリス	<i>Amaryllis</i> cv.	草本単子葉	ユリ				鑑賞			○		赤色	不明	
コンニャク	<i>Amorphophalus konjac</i>	草本単子葉	サトイモ				食用	○				不明	不明	
ムクノキ	<i>Aphananthe aspera</i>	木本	ニレ					○				不明	不明	
マンリョウ	<i>Ardisia crenata</i>	木本	ヤブコウジ				鑑賞/行事					不明	赤色	
ハラン	<i>Aspidistra elatior</i>	草本単子葉	ユリ			鑑賞	鑑賞			○		不明	不明	本文3.1を参照
イヌワラビ	<i>Athyrium niponicum</i>	シダ類	イワアザミ					○						
アオキ (園芸品種)	<i>Aucuba</i> cv.	木本	アオキ			鑑賞	鑑賞			○		不明	赤色	本文3.2を参照
アオキ	<i>Aucuba japonica</i>	木本	アオキ			鑑賞	鑑賞			○		不明	赤色	本文3.3を参照
ベゴニア (園芸品種)	<i>Begonia</i> cv.	草本双子葉	シュウカイドウ				鑑賞				○	桃色	不明	
アワゴケ	<i>Callitriche japonica</i>	草本双子葉	アワゴケ									黄緑色	不明	
シイ属の一種	<i>Castanopsis</i> sp.	木本	ブナ					○				不明	不明	本文3.4を参照
ヤブガラシ	<i>Cayratia japonica</i>	草本双子葉	ブドウ					○				不明	不明	
カリン	<i>Chaenomeles sinensis</i>	木本	バラ			食用	食用			○		桃色	黄色	本文3.5を参照
センリョウ	<i>Chloranthus glaber</i>	木本	センリョウ				鑑賞					不明	赤色	
オリヅルラン	<i>Chlorophytum comosum</i>	草本単子葉	ユリ				鑑賞			○		不明	不明	
シユンギク	<i>Chrysanthemum coronarium</i>	草本双子葉	キク				食用			○		黄色	不明	
ミカン属の一種	<i>Citrus</i> sp.	木本	ミカン				食用			○		白色	橙色	
ツユクサ	<i>Commelina communis</i>	草本単子葉	ツユクサ					○				不明	不明	
カネノナノキ	<i>Crassula portulaca</i>	草本双子葉	ペンケイソウ				鑑賞				○	不明	不明	
ミツバ (茎が白色)	<i>Cryptotania japonica</i>	草本双子葉	セリ					○				白色	不明	
ミツバ (茎が紫色)	<i>Cryptotania japonica</i>	草本双子葉	セリ				食用			○		白色	不明	
シンビジウム (園芸品種)	<i>Cymbidium</i> cv.	草本双子葉	ラン				鑑賞			○		不明	不明	

ソテツ	<i>Cycas revoluta</i>	木本	ソテツ						鑑賞						不明	不明	
オニヤブソテツ	<i>Cyrtomium falcatum</i>	シダ植物	オシダ												不明		
キユウリ	<i>Cucumis sativus</i>	草本双子葉	ウリ	食用											黄色	緑色	本文3.6を参照
セリハビエソソウ	<i>Delphinium anthuriscifolium</i>	草本双子葉	キンポウゲ												紫色	黄緑色	
メヒシバ属の一種	<i>Digitalis sp.</i>	草本単子葉	イネ												不明	不明	
ヤマノイモ	<i>Dioscorea japonica</i>	草本単子葉	ヤマノイモ												不明	不明	
カキノキ (甘柿)	<i>Diospyros kaki</i>	木本	カキノキ	食用											黄緑色	橙色	本文3.7を参照
カキノキ (園芸品種)	<i>Diospyros cv.</i>	木本	カキノキ												黄緑色	不明	
ハビイチゴ属の一種	<i>Duchesnea sp.</i>	草本双子葉	バラ												不明	不明	
エケベリア属の一種	<i>Echeveria sp.</i>	草本双子葉	ペンケイソウ						鑑賞						白色	不明	
ミツマタ	<i>Edgeworthia chrysantha</i>	木本	ジンチョウウゲ	鑑賞	鑑賞				鑑賞						黄色	不明	本文3.8を参照
ダイオウグミ	<i>Elaeagnus multiflora var. gigantea</i>	木本	グミ	食用	鑑賞				鑑賞						黄色	赤色	本文3.9を参照
トクサ	<i>Equisetum hyemale</i>	シダ類	トクサ						鑑賞								
ヒメジョオン	<i>Erigeron annuus</i>	草本双子葉	キク												白色	不明	
ムカシヨモギ属の一種	<i>Erigeron sp.</i>	草本双子葉	キク												不明	不明	
ビワ	<i>Eriobotrya japonica</i>	木本	バラ	食用	食用										白色	橙色	本文3.10を参照
ツワブキ	<i>Farfugium japonicum</i>	草本双子葉	キク						鑑賞						不明	不明	
ヤツデ	<i>Fatsia japonica</i>	木本	ウコギ												白色	黒紫色	本文3.11を参照
マルキンカン	<i>Fortunella japonica</i>	木本	ミカン						鑑賞						白色	黄色	
チチコグサモドキ	<i>Gnaphalium purpureum</i>	草本双子葉	キク												不明	不明	
ウラジロチチコグサ	<i>Gnaphalium spicatum</i>	草本双子葉	キク												不明	不明	
ドクダミ	<i>Houttuynia cordata</i>	草本双子葉	ドクダミ												白色	不明	
アジサイ (園芸品種)	<i>Hydrangea cv.</i>	木本	ユキノシタ						鑑賞						青紫色	不明	
チドメグサ	<i>Hydrocotyle sibthorpioides</i>	草本双子葉	セリ												黄緑色	黄緑色	
サツマイモ	<i>Ipomoea batatas</i>	草本双子葉	ヒルガオ	食用											不明	不明	本文3.12を参照
シャガ	<i>Iris japonica</i>	草本単子葉	アヤマ						鑑賞						白色	不明	
ヤマブキ	<i>Kerria japonica</i>	木本	バラ	鑑賞	鑑賞				鑑賞						黄色	黄緑色	本文3.13を参照
ホトケノザ	<i>Lamium amplexicaule</i>	草本双子葉	シソ												不明	不明	
シンテツポウユリ	<i>Lilium × formolongi</i>	草本単子葉	ユリ						鑑賞						白色	黄緑色	
コヤブラン	<i>Liriope spicata</i>	草本単子葉	ユリ						鑑賞						白色	青紫色	
トマト	<i>Lycopersicon esculentum</i>	草本双子葉	ナス	食用											黄色	赤色	本文3.14を参照

モクレン	<i>Magnolia liliiflora</i>	木本	モクレン																	不明	不明		
トキワハゼ	<i>Mazus pumilus</i>	草本双子葉	ゴマノハグサ															○			不明	紫色	
ニガウリ	<i>Momordica charantia</i>	草本双子葉	ウリ																		不明	不明	
ナンテン	<i>Nandina domestica</i>	木本	メギ				緑起物											○			赤色	本文3.15を参照	
スイセン属の一種	<i>Narcissus sp.</i>	草本単子葉	ヒガンバナ																		不明	不明	
ナガハジャノヒゲ	<i>Ophiopogon japonicus var. umbrosus</i>	草本単子葉	ユリ				鑑賞											○			白色	本文3.16を参照	
カタハミ属の一種	<i>Oxalis sp.</i>	草本双子葉	カタハミ															○			黄色	黄緑色	
ムラサキカタハミ	<i>Oxalis martiana</i>	草本双子葉	カタハミ															○			不明	不明	
ハクソカズラ	<i>Paederia scandens</i>	草本双子葉	アカネ																		不明	不明	
ツタ	<i>Parthenocissus tricuspidata</i>	木本	ブドウ															○			不明	不明	
アオジソ	<i>Perilla frutescens var. crispa</i> forma <i>viridis</i>	草本双子葉	シソ				食用														不明	不明	
フキ	<i>Peusites japonicus</i>	草本双子葉	キク																		不明	不明	
アサガオ	<i>Pharbitis nil</i>	草本双子葉	ヒルガオ					鑑賞										○			不明	不明	本文3.17を参照
アサガオ (鉢植え)	<i>Pharbitis nil</i>	草本双子葉	ヒルガオ																		不明	不明	
ナガエコミカソウ	<i>Phyllanthus tenellus</i>	草本双子葉	トウダイグサ																		不明	不明	
センナリホオズキ	<i>Physalis angulata</i>	草本双子葉	ナス					鑑賞													黄色	不明	
オオバコ	<i>Plantago asiatica</i>	草本双子葉	オオバコ															○			白色	茶色	
ネザサ	<i>Pleioblastus argenteostriatus</i> forma <i>glaber</i>	木本	タケ					行事										○			不明	不明	
メダケ属の一種	<i>Pleioblastus sp.</i>	木本	タケ																		不明	不明	
ヤブミョウガ	<i>Pollia japonica</i>	草本単子葉	ツククサ															○			白色	青紫色	
サクラ属の一種	<i>Prunus sp.</i>	木本	バラ																		不明	不明	
イノモトソウ	<i>Pteris multifida</i>	シダ類	イノモトソウ																		○	○	本文3.18を参照
ザクロ	<i>Punica granatum</i>	木本	ザクロ				鑑賞														赤色	赤色	
ツツジ属の一種	<i>Rhododendron sp.</i>	木本	ツツジ				鑑賞														赤紫色	不明	
オモト	<i>Rohdea japonica</i>	草本単子葉	ユリ																		桃色	不明	
イスガラシ	<i>Rorippa indica</i>	草本双子葉	アブラナ															○			黄色	不明	
バラ (園芸品種)	<i>Rosa cv.</i>	木本	バラ																		桃色	不明	
ユキノシタ	<i>Saxifraga stolonifera</i>	草本双子葉	ユキノシタ															○			白色	不明	
ツメクサ	<i>Sagina japonica</i>	草本双子葉	ナアジコ															○			不明	不明	
サルビア (園芸品種)	<i>Salvia cv.</i>	草本双子葉	シソ																○		青紫色	不明	
ニワトコ	<i>Sambucus sieboldiana</i>	木本	スイカズラ																		不明	不明	

カニバサポテン属の一種	<i>Schlumbergera</i> sp.	サポテン																		
タツナミノソウ (園芸品種)	<i>Scutellaria</i> cv.	シソ																	白色	黄緑色
タツナミノソウ属の一種	<i>Scutellaria</i> sp.	シソ									○								紫色	黄緑色
メキシコマンネングサ	<i>Setum mexicanum</i>	ペンケイソウ										鑑賞							黄色	不明
ノゲシ	<i>Sonchus oleraceus</i>	キク									○								黄色	不明
ヒヨドリジョウゴ	<i>Solanum lyratum</i>	ナス									○								不明	不明
イヌホオズキ	<i>Solanum nigrum</i>	ナス									○								白色	不明
アキノキリンソウ属の一種	<i>Solidago</i> sp.	キク										鑑賞							不明	不明
ホウレンソウ	<i>Spiniacia oleracea</i>	アカザ										食用							不明	不明
ネジバナ	<i>Spiranthes sinensis</i> var. <i>amoena</i>	ラン										鑑賞							桃色	不明
ハコベ	<i>Stellaria aquatica</i>	ナデアシコ									○								不明	不明
タンポポ属の一種	<i>Tanacetum</i> sp.	キク										遊び							黄色	赤褐色
シュロ	<i>Trachycarpus fortunei</i>	ヤシ																	不明	不明
カラスウリ	<i>Trichosanthes cucumeroides</i>	ウリ						薬用				鑑賞							白色	赤色
トリテイレア属の一種	<i>Triteleia</i> sp.	ユリ										鑑賞							紫色	不明
チューリップ (園芸品種)	<i>Tulipa</i> cv.	ユリ										鑑賞							不明	不明
オニタビラコ	<i>Youngia japonica</i>	キク																	黄色	不明
フジ	<i>Wisteria floribunda</i>	マメ										鑑賞							紫色	不明
サンショウ	<i>Zanthoxylum piperitum</i>	ミカン										食用							不明	不明
ミョウガ	<i>Zingiber officinale</i>	ショウガ										食用							不明	不明

学名は主に寺崎・奥山 (1977) による。

- 1) サポテン類以外は仁田坂 (2009) による。
- 2) 網掛けのみは、生育は確認されているが利用がなされていないことを示す。
- 3) A宅の庭に自生している植物で、掲載されている種類とは区別される。本来、コンニャクは栽培植物であるが、A宅の株はカラスが運んできた芋に由来するので、野生種に含めている。
- 4) 磯野 (2007) に記載されている栽培植物のうち、奈良時代から江戸時代末頃に渡来した植物。
- 5) 明治以降に渡来した栽培植物。
- 6) A宅で見られた草本植物および木本植物の花の色を示す。
- 7) A宅で見られた草本植物および木本植物の果実の色を示す。

出所 : A夫妻のインタビュー調査の結果をもとに筆者作成。